

# 会 報

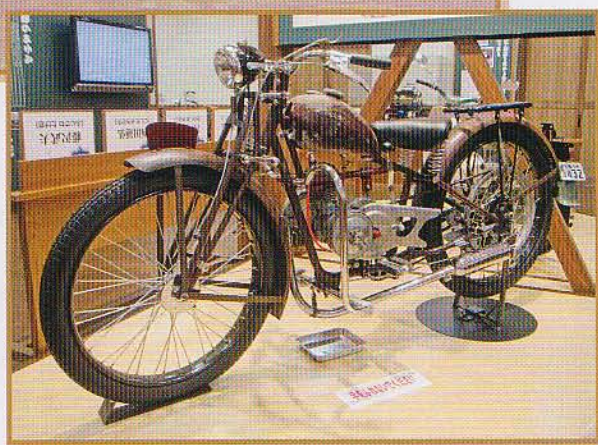
平成22年9月15日

# てんりゅう



## 「本田宗一郎ものづくり伝承館」

右の写真は“ホンダ C型”  
ホンダ初のモーターバイク



会報てんりゅう 第98号

(社)天竜建設業協会 浜松市天竜区二俣町鹿島491-5 ☎(053)926-1562  
編集・発行 広報委員会 題字 秋山錠介 FAX (053)925-6468  
電子メールアドレス tenryu@aqua.ocn.ne.jp  
ホームページ <http://www.tenkenkyo.net/>





館内の様子

今年4月1日に世界に名高い本田技研工業の創業者である故本田宗一郎氏の功績を称え、ものづくりの精神を子どもたちに広く伝えるため、生誕の地である浜松市天竜区に「本

# 本田宗一郎 ものづくり 伝承館

田宗一郎ものづくり伝承館」が開館した。

施設は、国の登録有形文化財として指定されていた旧二俣町役場を、屋根や外観などを変えることなく改築したものとなっている。

本田宗一郎は、明治39年11月、静岡県磐田郡光明村（現在の浜松市天竜区）に生まれ、一代で乗用車の製造会社を設立し、世界的な企業に発展させた。展示では、幼少時代の数々のエピソード、成功と失敗のドラマ、人間像を紹介し、実践したものづくりの精神を伝えている。1階入り口を入ると「私



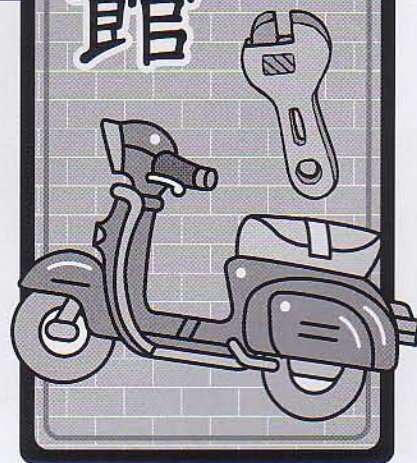
館長の大橋武司氏

の手が語る」と題したパネルがあり、宗一郎の永年にわたる努力の跡として左手の傷や火傷などが刻まれている。また、企画展示では大ヒットとなった「スーパーカー」などのバイクやさまざまな写真で宗一郎の人生の軌跡が展示さ



展示品がいっぱい

れている。2階は図書閲覧スペースや子どもたちがものづくりを実践する「ワークショップスペース」などとなっている。



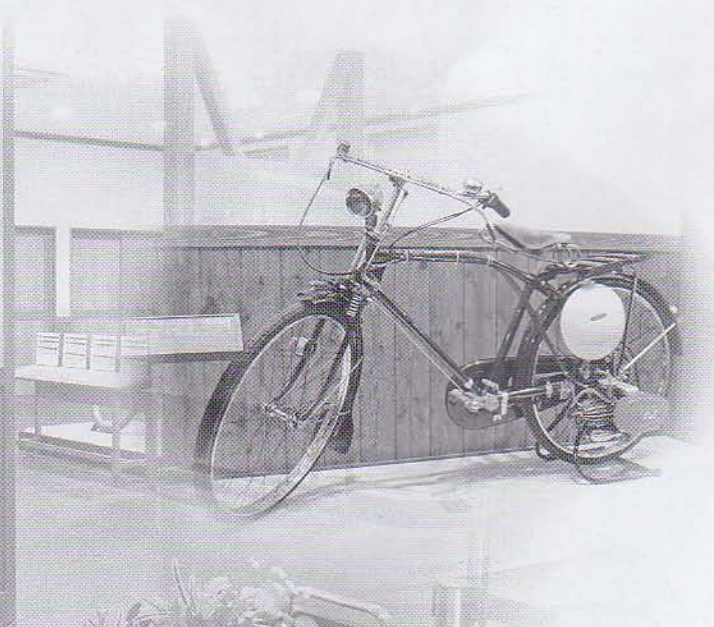


運営は、「NPO法人本田宗一郎夢未来想造倶楽部」が当たっている。理事長である大橋武司氏に話を聞いた。

「現在倶楽部の会員は400人を超えています。本年度の活動としては、ミュージカル『本田宗一郎物語』を開館を記念して上演しました。また、ホンダのものづくり精神を子どもたちにも伝えるため、ホンダOBの方々に協力頂き、ものづくりワークショップとしてダンボールクラフトなどを実施しました。今後も引き続きワークショップを行っていくとともに、NPOの会員を増やして世代交代し、後世に伝えていければと思っています」と話す。

同館では、10月28日～12月中旬まで有料となるが「生誕記念特展」で遺品の展示等を計画している。

ホンダスーパーカブ (C100)  
世界中で大ヒットした小型オートバイ



問合せは、NPO法人本田宗一郎夢未来想造倶楽部  
<http://www.honda-densyokan.com/>  
 電話<053>477-4664 所在地 浜松市天竜区二俣町二俣1112





## 白血病と闘う

T・Y

私の小学校からの友人が、白血病に侵されました。彼は、約十年その病氣と闘っています。白血病とは、血液細胞のガンで、骨髓の中で白血球細胞が増殖し、正常な造血機能が低下するために起こる病気だといわれています。

彼は、移植手術や二度の再発により、二十歳頃から三十二歳に至る今日まで、働くことも、好きなサッカーも、私達が普段何気なくこなしている日常的な事まで制限されて生きてきました。「人生で一番楽しいと思っていた時期を棒に振っちゃった。これからの人生で、今までの分を取り戻したい。」と、彼は私に語りました。五年間白血病の症状が見られない状態を完全寛解と言ひ、再発の可能性がほぼ無くなったと考えられるらしいのですが、彼は今、四年半の間再発していません。今後彼が、再発しないことを願いつつ、骨髓バンクについて書かせて頂きます。ドナー登録は、十八歳以上、五十四歳

以下で、体重が、男性四十五kg以上、女性四十kg以上の方が登録できますが、過去の病歴等により登録できないこともあります。骨髓移植は、白血球の型が患者とドナーの間で一致していることが必要ですが、兄弟姉妹間で、四人に一人の確率で一致し、血縁関係でないと、数百人から数万人に一人の確率でしか一致しません。日本では、毎年約六千人が、重い血液の病氣になり、この内二千人が骨髓移植を望んでいます。ドナー登録にも、課題や問題はあります。例えばドナーは選出後、一週間程度休みをとらなければならず、手術から入院までの費用は一切掛かりませんが、休業補償は無く、又ドナーが入院することによって発生する可能性のある、子供の保育、家族の交通、食事等、ドナー本人以外の費用、労力発生に、補助はありません。しかし、ドナーの方々の善意によって、私の友人を含め、たくさん

## かんとくさん



天竜土木整備事務所  
工事第1グループ  
田付 敦士

私は浜松市天竜土木整備事務所配属されて3年目となります。誠に恥ずかしい話ですが、配属前は仕事及び私生活において、天竜区に関わることが少なく、配属先を聞いた時は正直、『遠いなあ...』と思ひました。それでも、平地より特殊な仕事が多く、何より土木という仕事の大きな魅力である『対自然』感がどこよりも体験できる環境であり、緊張よりも大きな期待を感じていました。

配属後、何よりも驚いたのは『災害』でした。直高30m程の法面が崩落し、道路を塞いでいる光景は非常に驚きました。旧浜松市で暮らした自分にとっては、テレビ等でしか見ることの無かった光景であり、実はこれも浜松市なのだと、改めて合併し広くなった市の姿を

感じました。毎日、当然のように通行している道路でも、天竜区では現在でも災害によって生活に支障をきたしているという現実を市民全体が知るべきだと思いました。

先日、現場調査している際、ふと足元を見ると、地面が動いていました。何かと良く見ると『ビル』が群れを成して動いていました。気づくと一目散に逃げている自分がいました。また、他の現場ではシカや猿と遭遇したこともありました。これらは天竜区ならではの貴重な体験です。仕事以外でもこうした発見を通し、天竜区の良い所をいろいろと経験していきたいと思ひます。これからも宜しくお願いいたします。





## 建設ギャラリー

工 事 名 称 平成21年度 山村道路網整備堀切線1工区工事  
 工 事 場 所 浜松市天竜区水窪町奥領家地内  
 発 注 者 静岡県西部農林事務所  
 施 工 業 者 正光建設株式会社  
 工 事 概 要 延長485.0m 幅員4.00m 切土工4,217m<sup>3</sup> 盛土工3,884m<sup>3</sup>  
 法面保護工3,816.3m<sup>2</sup> 路盤工1,230.9m<sup>2</sup> 防護施設工158m  
 排水施設工5箇所



この堀切線は、水窪町の西浦地区から草木地区を縦断する全延長6,703mの林道で平成8年から開設されています。21年度工事完了後で残り＝995mとなり、平成29年までに完成する予定になっています。現場は、標高930mあり地質が礫まじり粘性土で、冬季の積雪・凍結また、その融解によって路盤が軟弱化になった状態が続き、さらに3月からの度重なる降雨の影響で土工の進捗が思うように進まない状況で苦労しましたが、無事に工事を完成することが出来ました。



## 最近のキーワード

## 「トライアル発注推進事業」

静岡県内の中小企業者が開発した新商品を県が試験的に購入し、使用後に当該商品の有用性を評価する事業。契約実績をつくることで、企業者の販路開拓を支援し、中小企業の育成を図ることを目的としている。本年度は建設関連でエコ商品など10社・10品目が認定された。

募集に当たっては、対象商品が

- ①経営革新計画の承認を受けた県内中小企業者が新商品として生産する物品
- ②県が有効な用途を認め、購入が見込まれるもの
- ③JIS規格など品質や安全性の基準に合致するものなどの条件を満たす必要がある。

## 私の安全パトロール日誌

龍川建設(株) 原 哲也

今年の4月から新しく「安全指導員」としてお世話になることになりました、龍川建設(株)の原哲也と申します。

住んでいるところは龍山町で、秋葉ダムを見ながら日々を重ね、早50年、早いものです。家族構成は妻と子供3人、父母も健在で平々凡々と暮らしております。

さて、安全指導員としての職務については、諸先輩指導員の御指導のもと遂行してまいりますが、私の目標としましては、各会社が工事現場で安全対策として取り組んでいる、手本となる良い事例を紹介していきたいと思えます。

まだまだ厳しい暑さが続きますので、熱中症には十分気をつけて事故のないよう「安全第一」をお願いします。



## My Family

## 『我が家の娘たち』



伊藤建設株式会社 伊藤裕彦

我が家の子供たちを紹介します。上から長女 祥子（12歳）次女 菜未（9歳）3女 美咲（7歳）愛犬コロ（1歳）オス以上がそうです。今は夏休みの真最中なので、毎日が賑やかで大変です。学校は家から4km先の城西小学校に市の福祉バスに乗って通学しています。自分が通う頃は300人位いた全校生徒も、今では、19人と過疎化

の影響で年々寂しさを増しています。平成の大合併から、若者たちの就職口が減少し浜北方面への転出が後を絶ちません。今自分が思うのは、子供たちが大人になって過去を振り返った時、田舎の祭りは面白かったな、盆踊りは楽しかったなと、記憶に残るように努力しています。そして、いつまでも故郷を大切にすること、子供に育てくれることを願います。



幸を得ました。親からの支援金は手取で二千元程度でしたので、少し大金持ちになったような気分でした。未だにコンサルタント業はなく、我々の技術が当てにされておりましたので、普通の時間もこれに当てる事が求められ、忙しい時代でした。



天竜区役所 健康づくり課

河合 那奈さん

私が天竜区健康づくり課の非常勤職員として働きはじめて、早いもので2年が過ぎました。この所属は、産まれたばかりの赤ちゃんからご年配の方までの区

民の皆さんの健康を預かる業務を主としています。働きはじめた頃は、慣れない事ばかりで緊張の毎日でしたが、諸先輩の助けをいただきながら、早く先輩のように仕事をこなしたいという一心で仕事に取り組んでいたことを覚えています。最近では、私を頼って訪ねて来てくれる方も徐々に加え、それが、私の大きな励みとなっています。一方、乳幼児検診などで、お母さんから直接お子さんの健康に関する悩みなどを伺って、改めて健

康の大切さを実感し、区民の皆様が毎日健康で安心して暮らせるようお手伝いしたいという気持ちにより強く抱くようになりました。私自身、まだまだ、学べき事が沢山ありますが、この所属で多くの事を吸収して、区民の皆様に親しみやすく、分かりやすい応対ができるようこれからも意識して成長していきたいです。そして、天竜区に明るい笑顔が増えることを、願いつつ、所属の仲間と協力し合いながら日々努めていきたいと思っています。

## お宝発見

シリーズ第11回 測量士登録証

～(株)いづよ建設 泉澤 滋～

いまを遡る五十数年前の浜工土木科在学中に測量士試験に合格してアルバイト代金が急に上がりました。その当時は一般の労働者が日額二、三百円の時代でしたが、我々の単価は四百円程度でしたので合格の内定が来たら千円程度に上がり

(社)静岡県建設業協会の広報誌「けんせつ静岡」の「わが街ウォッチング」に浜松市天竜壬生ホールが掲載されています。アドレス → <http://www.sizkk-net.or.jp/magazine/235/>